恭賀新年

東日本大震災の津波で大きな被害を受けた宮城県東松島市の野蒜（のびる）海岸から望む初日の出。雪が舞う中、大勢の人たちが集まり被災から５度目の新年を迎えた＝１日午前６時５５分（産経ニュース）

we support!
RQ 災害教育センター

MONTHLY

「東北に黒帯を送ろう！大作戦しんぶん」改め

復興支援 かわらばん『すけさきた』しんぶん

「すけさきた」とは宮城県登米市あたりの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である

JANUARY 11 2016

「女川（おながわ）さいがいFM」が3月末で放送終了になります

（朝日新聞デジタル）東日本大震災の直後に開局し、NHKのテレビドラマにもなった宮城県女川町の臨時災害放送局「女川さいがいFM」が、2016年3月末で閉局することがわかった。

女川町は津波被害で防災無線などの情報伝達手段を失った。この対策としてボランティアグループがFMラジオの活用を提案。免許を受けた町がこのグループに運営を委託し、2011年4月に開局した。地元の若者も番組に参加し、震災2年後には、そのうちの女子高生1人を主役にNHKがテレビドラマ「ラジオ」を放送して反響を呼んだ。FM局を見に町を訪れる人も少なくない。

ただ、運営費は苦しい状態が続いた。統括役の放送作家、大嶋智博さん（42）は**「全国からの寄付がうれしかったが、人も予算も少ない中で頑張るのは限界がある。臨時局として5年が区切り」と話す。**JR女川駅が再開し、防災無線などの整備が進んだことも勘案したという。

常設のコミュニティーFMへの移行も検討したが、「人口7千人弱の町の経済規模を考えると、持続させるのは難しい」と断念した。閉局後は、インターネットなどを活用した地域メディアを始める考えだ。

須田善明町長は「大きな役割を果たしてくれたFMに感謝している。経験を生かし、新しい情報発信を進めたい」と話している。

東日本大震災の被災地では、女川以外に臨時災害放送局が8局あるが、どこで区切りをつけるかは共通の悩みだ。阪神大震災などでは、臨時災害局は1～3カ月で閉局となった。

（隈元信一）

資料：産経ニュース2016.1.1、朝日新聞デジタル2015.12.16

女川さいがいＦＭのスタジオ。マネジャーの阿部真知子さん（右）とディレクターの石森充さん＝11月30日、宮城県女川町、隈元信一撮影

このようなお知らせの場で
さらにこのようなお願いをすることは
大変恐縮なのですが、
無事に最終回を迎えられるよう
残り2ヶ月ぶんの経費と撤収費用として
120万円を目標に
皆様からのご寄付をお願いしております！
（詳細はonagawafm.jpにて）

文責：井上文子（西表島エコツーリズム協会　東北復興支援担当）